

この会社でなければ・・・

仕事は続けられなかったと思います！

株式会社ふじや食品

(食品製造業／鹿沼市)

【雇用障害者数】8.5名



ライン作業を担当するMさん(身体障害)について、総務・人事係長の堀井さんにお伺いしました。

【採用・雇用のきっかけ】

今回の対象者Mさんは、10代後半で交通事故により障害を持ちました。その後は腰・足に痛みを抱えていましたが、Mさんの実家が職場から徒歩で約10分と近いこともあり、就業を開始しました。

【雇用に際しての取組】

● アプローチ1 社内への理解、周知の方法について

Mさんの場合は長期勤務(28年間)でもあり、現場のリーダー以外には障害があることを特に周知していません。見た目では分からず、本人も聞かれた時に答えるようにしています。現在もこのような対応で特に問題はありません。

● アプローチ2 職務について、採用ポイント

製造ラインでの作業となり、長時間の立ち仕事のため集中力や手先の器用さが求められますが、Mさんについては就業上の問題はありません。

● アプローチ3 支援機関とのつながり

特別支援学校からの職場実習を、繁忙期を避けた6月と9月に行っています。主に冬場が繁忙期ですが、その時期は工場全体が張り詰めた雰囲気になり、そのような中での実習や障害者の入社はお互いにデメリットと考えています。

【職場定着のための配慮・工夫など】

本人に合わせたやり方で対応しています。例えばライン上の配置では、右目の不自由な人は左からの流れ作業の位置に配置、左目ならば反対というように、立ち位置を配慮するなどの工夫をしています。



【現状と今後の課題】

今後も障害者の雇用については、前向きに考えています。

障害のある人は食品を扱う仕事には向かないと思っている人もいるようですが、障害を持った人でも充分に出来る仕事です。工場見学や職場実習など、積極的に受入れたいと思っています。ただ、立地上通勤手段として車の運転が必須となります。また、立ち仕事が出来れば活躍してもらえるはずですが。

Mさんについては、長年勤務し仕事の要領が全て分かっていると思いますが、今後も怪我などすることなく続けてもらいたいと思っています。

以前、聴覚障害者が入社してきました。本人は当初不安そうでしたが、偶然にお子さんの学校のPTA活動で手話を勉強していた従業員がいました。この従業員との手話でコミュニケーションがとれ、それからは周囲にも溶け込み不安もなくなり、仕事を覚えるスピードも上がったとのこと。コミュニケーションが取れるということは、障害のある人にとっては大切なことに思えます。



【Mさん（60代女性）へのインタビュー】

Q. 現在はどのような仕事をしていますか？

A. 主にライン作業となりますが、流れてきたワンタンをトレーに入れるという、同じ作業を1日中行っています。作業終了後は、使用した機械の清掃作業を毎日行います。



Q. 現在の仕事について、どう思っていますか？

A. 食品会社はライバル会社も多いので、大勢の人に買ってもらえるよう一生懸命作っています。ワンタンに髪の毛などの異物混入はないか、クレーム品が出ないよう、気をつけて作業をしています。これは私だけではなく、全従業員で注意をしていることです。



Q. 今の職場をどう思っていますか？

A. 皆で助け合い、協力し合っています。立ち仕事なので夕方になると足腰も痛くなり、痛みが強い時には早退することもあり、皆さんに助けてもらっています。

仕事に厳しい管理職の方々も普段は優しく、体調の悪い時など気遣ってもらっています。また1年前、人工関節を入れる手術を受けるために休み、先日もインフルエンザにかかってしまい、会社には迷惑をかけてしまいました。この会社でなければ、仕事は続けられなかったと思います。

Q. 将来の目標はありますか？

A. 4年後には定年なので、夫婦で旅行・遊び・カラオケ・温泉に行こうと考えています。また、足の痛みや母親の世話などもありますが、70歳まで働きたい気持ちもあります。

【取材を終えて～取材担当者コラム】

Mさんは正社員で28年間のキャリアがあります。事故で身体障害者となり、40年間痛みを抱えながらも家庭と仕事を両立させており、とても笑顔の素敵な方でした。

食品を扱うため異物混入などに関してはかなりの注意を払い、指導も徹底しているようですが、明るく、優しい雰囲気の会社でした。障害者雇用に関しては積極的で、身体以外の知的・精神障害者の雇用促進のため、特別支援学校や支援機関とも連携し、実習受け入れなど行っているそうです。これからも障害者雇用が進んでいくことと思われます。

